

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第11号

マイ スカイ

1996年6月25日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責: 吉成正士

先日^{せんじつ}, うちに来ていた甥っ子^{おい}(小5)を見てましたところ, やたら缶^{かん}ジュースを集めているのです。どうも, 缶^はに貼っているシールを集めてファミコンを当ててやろうと企^{たくら}んでいるのだそうです。でもそのおかげで, やたらお小遣^{こづか}いをほしがる, やたらジュースを飲む……。いくら缶ジュースの会社^{りえき}が利益を上げるためとはいえ, 物事^{ものごと}の判断^{はんだん}がしっかりできない子ども相手に, よくもまあこんなことをするなと思います。さて, みなさんはどう思いますか?



◎部落問題意見発表会 (6月11日: 校内大会・21日: 板野郡大会)

6月11日, 各学級から合計15名の代表者が体育館のステージに登壇^{とうだん}し, それぞれの部落問題に対する思いを告白^{こくはく}していきました。実はそれ以前にも, 各学級さまざまな方法で学級発表会を行い, そのうえで学級代表者が学年発表会へとすすみ, 今回と同じように体育館で発表していたのですが, それでも緊張^{きんちよう}の色は隠^{かく}せず, みなさん真剣^{しんけん}な表情^{ひようじよう}で熱い本当の思いを告^つげてくれました。

なかでも自分の両親が受けてきた被差別体験, また自分自身の差別体験や被差別体験, そして自分の中にある差別意識などについて, 具体的^{くたいてき}に触^ふれていたため, 聞き手にもすごくよくわかり, かつ共感^{きようかん}できる内容の発表が多かったと思います。

ちなみに, 意見発表の学校代表として2年E組の楠本真央さんが, そして同和カルタの学校代表として3年C組の中原裕一さんと1年B組の小川小百合さんが, 板野郡大会として21日に藍住中学校へと行ってきました。3人ともがんばりましたが, 他校^{たこう}のみなさんも素晴らしく, 残念ながら郡代表になることはできませんでした。でも, 順番^{しゅんばん}をつけるとか, 誰がすごいとかいうことよりも, みんながすごくって, そんなみんなと知り合えたり, 発表を聞けたりしたことが, 本当に良かったことなのだと思います。

できればここで, それらの発表原稿^{げんこう}を掲載^{けいさい}したいのですが, どれからどう載^のせていいの

か私自身決めることができず今回載せることはできませんが、いずれにしても何らかの形で大切に残しておこうと思います。



◎3年E組「Kくんの生活ノート」(6月13日:3年第2回全体学習〈板野町同和教育研究会〉)

6月13日、およそ300名もの^{さんかいしゃ}参会者とともに、板野町同和教育研究会が本校体育館で行われました。遠くは広島、京都や愛媛、香川からも来ていただきました。

今回の資料は、つい先日、本校の生徒が受けた差別について生活ノートに綴^{つづ}ってきたものを資料化したものであり、事実の話です。

大変活発^{かつぱつ}な学習の場となりましたが、その時に去年まで本校でいた仁木教頭先生が、かわって行った^{あらたの}新野中学校の学習会生徒に声をかけ、他の先生の引率^{いんそつ}のもと参観^{さんかん}に来ていました。まずはその感想文^{しょうかい}から紹介^{しょうかい}します。

板野中学校学習会のみなさんへ

私は^{あらたの}新野中学校の学習会参加者です。今日のみなさんの意見交換^{いけんこうかん}を聞いて、とても感動しました。

私たちの学校でも、このような意見交換^{きかい}の機会は今までに何度かあったのですが、板野中学校のようにどんどん意見が発表できるのではなく、一人が発表すると、次の人までの発表にずいぶん^ま間^あが空いてしまうのです。実際に私も同和地区出身の立場で、みんなの前で発表できたことは一度もありません。

でも、今日みなさんの意見交換を見て、こんな自分が恥^はずかしくなりました。私は言えなかったのではありません。言おうとしなかったのです。誰かが発表してくれるのを、ただじっと見ていただけでした。こんな自分がいるから、差別やいじめがこの世^よから消えることができないんだと思い知らされました。私たち同和地区の人間こそが先頭^{せんとう}に立って、差別解消への道^{みち}を突き進^{すす}まなくてはなりません。

今日の意見交換の場で直^{ちよくせつ}接^{せつ}みなさんとお話しできなかったことを、とても残念に思います。今少し遠くに離^{はな}れていますが、みなさんは板野中学校で、私は新野中学校で、より良い学校づくりを^{めざ}目指^{めざ}していきましょう。私たちの目指す道は同じです。差別をなくすためみんなが^{たんけつ}団結^{だんけつ}し、^わ仲間の輪^わを大きく大きく広げていきましょう。

今日は本当にたくさんの意見を聞かせてくれて、どうもありがとうございました。

6月13日 新野中学校 学習会生徒

この板野中学校から転^{てんしゅつ}出していった先生方同様、生徒のみなさんの間でもつながっていき
けると、本当にいいですね。彼女なんかも県中やその実行委員会に参加してもらえるとあ
りがたいですね。またそんな機会^{きかい}を通じて、エールの交換^{こうかん}をしていきませんか！

他にもたくさんの方々から感想文をいただきました。多くは載せられませんが、少し読
んでみてください。

先日^{せんじつ}は、とてもすてきな子どもたちに出会え、かなりハードでしたが楽しい一日を
過ごすことができました。ありがとうございました。

先生のおっしゃりたいことは、全部子どもたちが話し合^わって、つなぎ合^あっていきま
すものね。決して雄弁^{ゆうべん}だとか、スマートな感じは受けませんでした。子どもたちが
本当に素直^{すなお}な今の気持ち^{こころ}を語ろうとしている姿には、見ていて鳥肌^{とりはだ}がたってきました。

14・15才というすごく多感^{たかん}な時期^{じき}の子どもたちが、あんなに大勢^{おおぜい}の人の中で、
自分をさらけ出し、親の差別性や自分の弱さを語る……これが「自分を洗う」「自分
を解放^{かっかい}していく」作業なのですね。また、「中学生の子どもは、絶対におこりません。
おこらず、一緒につながっていこうとするんですよ」ということもこのことなんだと
わかりました。「一人一人は弱いから、つながり合^あってがんばっていくんですよ」と
いうことも、そのまま子どもたちに深く浸透^{しんとう}していることがわかりました。板中の先
生方には、「この時期に、こんなすてきな仲間と共に過ごせた子どもたちは、これか
らいろんなきついことや苦しいことに出会っても、決して人を嫌^{きら}いになったり拒絶^{きょぜつ}
したりすることはない」という確信^{かくしん}が持てるのだろーと思ひました。

女の子たちが、「自分には部落差別をなくしていく力なんかないんじゃないか、そ
ばにいる友達にも何もしてあげられない」と言った言葉にどんどんつながって行って、
終わりの方で男の子が(たぶん彼がTくんだったように記憶しているのですが)「女の
子たちは素晴らしい関係を作っていると思う。そのことこそが、部落差別をなくして
いくことそのものだ」というような発言をしましたよね。なんてすごい子なんだろう
と思ひました。そして、こんなすてきな子どもたちを苦しめる部落差別は絶対に許し
てはならないと……。

思いつくままに感想を書いてしまい、つながりのおかしな文章になってしまったこ
とをお許^{ゆる}してください。

本当にすてきな子どもたちに出会え、子どもたちからたくさんの元氣をもらって帰
ってきました。子どもたちにもよろしくお伝えください。

Mくんは、次の全体学習のしめには、どんなことを言い出すかドキドキしてしまいますね。

私は、今一年生を担当しています。本当にもう命いっぱいキラキラ輝いているという感じの子どもたちです。この子どもたちの瞳^{ひとみ}がいつまでも輝^{かがや}き続けるために、私も私にできることをがんばっていきたいと思っています。

ありがとうございました。また出会える日を楽しみにしています。

京都府福知山市立大正小学校 福井伊津子

※

この学年の全体学習を3年続けて参観することができた。

休みをとって来ているため、年一回しか見れないが、3年間の生徒のみなさんの成長^{せい}をひしひしと感じた。後ろから見ているので顔はわからないが、声^{こゑ}を覚えているため「ああ、この生徒がこんなに変わったんだなあ」と、続けることの大切さをしみじみと思った。年が変わることに先生方が吸^{きゅうしゅう}収した新しいものをぶつけている。生徒に教えるために、教師がさまざまなことを学びとっていることがわかり、この姿勢^{しせい}こそが生徒を変えていると思う。授業をするうえで、教師が生徒に対して最大限の礼儀^{らいぎ}を尽くしていると思った。

林竹二が「本物の授業^{ほんもの}では生徒の学力差(単なる点数)が消える」と言われていたが、この全体学習がまさにそうだと思う。生徒に対して本当に誠実^{せいじつ}な先生方の生きざまは、私も含めてすべての教師が学び、身につけなければならないと思った。

先日、板野中学校の卒業生で愛媛県の大学に来ているある男の子と話をする機会^{きかい}があったが、中学を卒業しても中学時代に体験^{たいけん}した全体学習^{きようれつ}が強^き烈なものであるとして心に残っていた。「教師に絶対になりたい。板中の先生のようにになりたい」と言っていたが、心の底^{そこ}から揺さぶられた熱い体験^{ねつ}は、ある意味で人間が一^{いっしょう}生をかけて歩むべき道^{みち}や方向性^{ほうこうせい}まで決定させる強い力を持っているように思う。

今回の授業の中である子が「何も自分はできていない」というようなことを語っていたが、そうではなく、目に見えないものが、体の中に一人ひとりの生き方の指針^{ししん}として残っていくように思うし、一人でも多くそうあってほしいと願っている。

授業の中である男の子が、「自分の差別意識をなくしていくためにやっている」という発言があったが、私もまずは自分が差別しないと生きていけないような醜^{みにく}い人間になりたくないというのが一番にある。そして、自分が本当に輝いた生き方を求め

みなさん、繰り返し、繰り返し、自分の生活を見つめ返しましょう。

★ ★ ★ ★ ★

6月26日(水) 1年第2回全体学習1年A組：資料「自分以下を求める心」

板野町同和教育研究会(板野養護学校)

28日(金)～30日(日) 板野郡総合体育大会

7月2日(火) 板野町同和教育研究会(板野南幼稚園)

『MY SKY 第12号』発行日

5日(金)～8日(月) 1学期末テスト



第1回徳島県部落解放学習会中学生集会
(板野町ふれあいプラザ)